

風力発電施設と問題点

T.K chiro_coro1@ybb.ne.jp

今、東伊豆では (一昨年暮より試験運転に入る、4月ブレード折損事故により停止、09.2

風車病

より再稼動) 「みさき台通信」13号 (09.4.18)より

・とにかく気力がなくなった。イライラする(複数) 怒りっぽくなった。

- ・眠れない、睡眠薬を飲む(多数)
- ・歩いていて風車から風下にむかうと、腰がだるい、痛い。風上に向かう場合は何でもない
- ・関節が痛い
- ・せみが鳴いたような音が耳もとでたえずする。
- ・鼻血が出た、(複数)
- ・夜下からうるさい(微振動)部屋の中の寝場所を変えると、耐えられる。
- ・我慢できなく、夜車に乗って移動(役場駐車場で夜を過ごした)。少し離れた別の分譲地で毛布を持って車の中で過ごした
- ・家に住んでいられない、物件を探している 我慢できず夜の避難所としてアパートを自費で借りた
- ・小鳥が来なくなった、ひまわりの種を置いていたが、寄り付かなくなった
- ・犬が落ち着かない、吐く
- ・朝起きると肩が張り時には吐き気がするときがある。脳外科でレントゲンを撮ったが異常なし。耳鼻科に行くように言われた
- ・東京に行くときよく眠れる
- ・別居状態、東京と行ったり来たりの生活
- ・飼っているウコッケイが夜鶏舎に入りたがらない。犬が夜犬小屋に入りたがらない

深刻な低周波音被害・・ 別名「風車病」 同8号08.4.11

長年低周波音被害に取り組んでいらっしゃる医師の汐見文隆先生が先月末、三井・大林の住民たちの被害状況を調査するためにお越しになりました。ご高齢にもかかわらず、はるばる和歌山からご夫妻、ならびに低周波音被害者の会ともども手弁当での来訪です。

この熱川でも被害を訴えられた12軒のお宅で低周波音測定と診察にあたって下さった。風車稼動直後からどの方もそれぞれ不眠、頭痛や肩こり、血圧上昇などの症状を示されています。

汐見先生のお話では、今までの被害(工場のモーター音、飛行場、冷蔵庫、クーラー、新幹線などの生活場面)と異なり、直ちに症状が出てきて、しかも個人差がなく、集団的に被害が出る、しかも低周波というより、超低周波で遠くまで届くということでした。

被害者の会の方が測定結果をパソコンで示しながら、測定されたお宅の住人に「眠れたのは 時ぐらいでしょう」というと、一様に頷いたのには驚きました。風車の稼動がいかに近隣住民の睡眠を奪っているか、愕然とさせられました。すでに倒れてしまい、入院された方も数人いるということ!

最も近い風車は200m程度で自宅近くに3基の風車が建つ。・ 風車の音がとにかくうるさい

最も近い風車が150m程度・風車に賛成をしたが、建設されて初めて、風車の被害を身をもってわかった。風車を建てさせては駄目。騒音について役所に言っても業者に言ってもなんの対策もない。誰にこの問題を言えば良いのか。・騒音で、一日中イライラしている。牛の飼育をしているがきっと牛もストレスを感じていると思う。風車が回っていても音がするのでこれもストレスになる。家の建具が振動する。・工事により、水の流れが変わった。・50基も建つ宇久は大変なことになるね。

最も近い風車が300m程度・・ 騒音がひどい。風車を建てるために木を切ったので、風当たりが非常に強くなった。「あんたに被害の説明して解決になるとや？」

最も近い風車が300m程度・ 風強いときは、風圧を感じる。風車が建ってから牛が流産する。また、発情が不定期になった。とにかく騒音がひどい。風が強く風車が回るときは夜眠れない。・ 環境に役立つ(炭酸ガス削減)と言うことだったので、建設に協力した。風力発電には火力発電所と言うバックアップ電源が必要なことは知らなかった。バックアップ電源などの正確な情報が知らされていたら、賛成しなかった。

- ・ [その他 HP 南豆の和 ttp://nanzumn.web.fc2.com/](http://nanzumn.web.fc2.com/) [南伊豆に今、何が起きているのか？](#)
[～渥美半島の風車被害から学ぶこと～](#) に詳しい報告が載っている

生態系への影響 ・ 伊東の自然保護団体の指摘によると、三筋山に風車ができると、猛禽類が飛ばなくなり、エサとなった東伊豆に住みついているタイワンリスが天城を越えるのでは、ということだ。

・長崎の生月島というところに5基ある風車の近くを飛んだハチクマという猛禽類(タカ科)は3*₀近く行くと直角に曲がり、回避したり、平戸島2基を5*₀以上回避する行動を観察した研究がある。またマナヅル、ナベヅルが生月島の草原で休息しなくなったという。平戸島でも、緊急時休息していたのに、風車建設後はまったく見られないという(鴨川 誠 名城大特任教授の研究)(みさき台通信 no13)

・野鳥に及ぼす影響・ 三重県の布引山に風車が沢山建つ布引山地(青山高原, 標高700~842m)にある青山高原ウインドファーム(24基, 内20基は2003年3月より稼働), ウインドパーク美里(8基, 2006年2月より稼働)とその周辺。そこで野鳥観測をやった人の話。風力発電機から直線距離で約800m以内では, 生息密度の差が見られ, (約60%)に減少していた。また, 発電機から200m以内では, (約36%)に減少していた。(三重県 野鳥の会会員報告)10号 08.9. 27

・ 風車とコウモリのこわーい話 カナダ研究者チームが風車の回りで死んでいる動物を調べたところ約6割がコウモリだった。死んだコウモリ188匹を回収し原因を究明した。解剖して判明した死亡原因はブレードが回る時に起こる急激な気圧変動！コウモリの死因は低周波ではなく、ブレードが回る時に作り出される急激な気圧の変動で、肺の中の血管が破裂し、血液が肺の中に充満した事に依る。

http://jp.youtube.com/watch?v=KRqu4WiLQfk&feature=related 12号 09.3.1より

朝日09.1.18



大規模開削に伴う自然破壊

あの雲の 彼方へ (山口県白滝山ウインドファーム)

http://nagm12002.exblog.jp/http://nagm12002.exblog.jp/8054697/ (再考・風力発電

建設ダイジェスト版)



下関市豊北町の白滝山は

1 . 現在も次々と 風力発電施設が建設されています。地形の関係で 田耕方面からは 山頂の状態はうかがうことが出来ず、また、登山道は 現在工事車両専用で 立ち入り禁止になっております。よって 地元の方々は ほとんど白滝山の惨状に気が付いていないのが現状です。上空から見ると ものすごい勢いで工事は進んでいます。白滝山はすでに 死んだ山・・・ 工事に関しては もう止めることは出来なんでしょう。 私たちは 今の白滝山の惨状をより多くの人々に知っていただき、第2、 第3の白滝山を出さないようにしなければと考えています。

2 . 三筋山(東伊豆と河津町との境に21基建設中)にはトキソウやイズコゴメグサ、キキョウクロシジミやクマタカをはじめとする希少生物が多数生息しています。もしここに風力発電施設が建設されたらこれらの希少生物は 全滅するでしょう。私は三筋山に生息する希少生物を沖縄県の辺野喜川に自生していた オリヅルスミレや諫早干潟に生息していたシチメンソウやムツゴロウを はじめとする固有種や希少種のように全滅させたくありません。(http://www7a.biglobe.ne.jp/~yunami/index.htm「風車問題を考える住民の会」IHP書き込みより



(2009年) 2月13日(金) 長野県知事記者会見
と答弁 (長野県議会本会議 録画中継のページ)

<http://www.pref.nagano.jp/gikai/tyousa/movie/library2102.htm> 2月27日(金) の一般質問・
質疑の項目で、動画閲覧可能)

小規模の風力発電でしたら、それは私は大変環境に優しいと言いますか、自然エネルギーの活用という観点から、結構なお話だと思うのですよ。ただ、本当に商業発電として、頼れるようなものになるためには、風力発電というのは非常にいろいろな意味で制約があるのです。といいますのは、当然のことですけれども、風が絶え間なく吹くことはない訳ですから、風が吹いたとき、たくさんの場所で風力をとらえて、吹いているところ、吹いていないところとのフラクチュエーション (fluctuation、変動) をできるだけ小さくするという作業が必要なのです。ヨーロッパで行われている商業的な風力発電というのは、そもそも風の強いところに置かれていることがありましようけれども、たくさんのポイントでの風力発電を総合することで、そういう変動をできるだけフラットなものにしていくというようなことが行われています。それから、最近の商業用の風力発電というのは、規模が非常に大きくなってきています。例えば、風車の径が50メートルとか100メートルとか、昔はちょっと考えられなかったような非常に規模が大きいものが

風車による健康被害と補助金交付認定に関する質問主意書”

提出者・保坂展人 衆議院議員(平成二十一年三月三十日提出)

http://www.shugiin.go.jp/itdb_shitsumon.nsf/html/shitsumon/a171256.htm?OpenDocument

風車による健康被害と補助金交付認定に関する質問に対する答弁書” 内閣総理大臣 麻生太郎 (平成二十一年四月七日)

http://www.shugiin.go.jp/itdb_shitsumon.nsf/html/shitsumon/b171256.htm?OpenDocument

伊豆半島の風力発電計画 2008/07



できているようです。そうであれば、それをいくらか非常に軽い素材で造ったからと言ったって、風の当たりは強いですから、それを支える柱というものも、相当堅固なものにならざるを得ません。言ってみますと、ひとつの風車を支えるのは、ひとつのビルを建てるようなことに近いことに技術的にはなり得ます。そうしますと、それを山の稜線に造るということは、結局それを造るための作業道路というものも造らないと、とても難しい話になります。建設だけでも結構そういう難しい要素がある上に、これは最近と言いますか、風力発電を現実にやってみて経験したことです、バードストライクの問題などが出てきている。